

# BUILD.3Sの活用方法

## —その1—

昨年、建設省により作成された「ハートビル法」の施行後、住宅・マンション・オフィスビル・各種公共建物において、「バリアフリー」に対応した設計が多くなってきました。この様な設計に対して構造設計者もスラブの設計に頭を悩ましているのではないのでしょうか。段差スラブ、あるいはコンクリートの打増しによる偏荷重等々スラブの設計も複雑になってきました。

従来から弊社の任意形状応力解析プログラム「BUILD.3S」では「板要素」が取り扱えるため、「BUILD.3S」で応力算定することにより適切な応力状態を求めることができます。この結果により配筋のチェック、部材及び配筋の決定に利用でき、スラブの設計が実状に沿ったものになります。実際に、ユーザー様の多くが、板要素を使用し、スラブ等の解析をされています。

今回は「板要素」の中でも代表的な平板曲げ要素の活用方法についてお話しします。

